

平泉文化の総合的研究基本計画 (第4期)

令和7年4月

岩手県・岩手県教育委員会

目 次

1 平泉文化研究の経緯	2
(1) 研究基本資料の蓄積	2
(2) 平泉研究への関心の高揚	2
(3) 研究機関整備に向けた動き	2
2 平泉文化研究の推進	3
(1) 第1期～第3期研究計画の概要	3
(2) 第1期研究計画（平成12（2000）年度～平成21（2009）年度）	3
(3) 第2期研究計画（平成22（2010）年度～令和元（2019）年度）	4
(4) 第3期研究計画（令和2（2020）年度～令和6（2024）年度）	4
3 平泉文化の総合的研究基本計画（第4期）について	6
(1) 第3期研究計画を受けた成果と課題	6
(2) 期間の設定	7
(3) 県等の予算事業名	7
(4) 研究テーマの設定	7
(5) 研究テーマごとの研究目的・目標及び研究の実施方法	8
(6) 第4期研究計画の年次計画	10
(6) 研究の実践	11
(7) 成果の公開	12
4 今後に向けて	12

1 平泉文化研究の経緯

(1) 研究基本資料の蓄積

平泉は12世紀末に奥州藤原氏が滅亡し、その後大規模な開発や災害を免れたため、いわゆる「平泉文化」を構成した文化財等は、現在でも良好に伝えられている。そのため、「平泉文化」を解明するための資料として、建造物、仏像を始めとする仏教美術資料、当時の記録類などの文献資料、陶磁器や建物遺構などの考古資料などがあり、現在に至るまで、多角的な観点から学術研究が進められてきた。

各種研究の中でも、『中尊寺と藤原四代 中尊寺学術調査報告』（1950）や『無量光院跡』（1954）、『国宝中尊寺金色堂保存修理工事報告書』（1968）、『奥州藤原史料』（1959）、『平泉 毛越寺と観自在王院の研究』（1961）などは、昭和年間を代表する基礎資料となっており、岩手県教育委員会においても『奥州平泉文書』（1958）の刊行や、柳之御所遺跡の発掘調査を継続して実施するなど、文化財の保護と学術情報の提供を行ってきたところである。

しかし、研究体制については、あるテーマのもとに臨時的に組織編成されるにとどまっていたため、この段階では研究の多くを研究者の個人的努力に依存していたともいえ、発掘調査がほぼ寺社境内に限られていた段階では、平泉文化研究の題材が、仏教美術や文献史料に偏る状況にあった。

(2) 平泉研究への関心の高揚

昭和63（1988）年に始まった、北上川一関遊水地事業及び国道4号平泉バイパス建設事業に伴う柳之御所遺跡の緊急発掘調査は対象地が約5万㎡と、それまで平泉町内で行われてきた発掘調査と比較して格段に広い面積であったばかりでなく、得られた調査成果も従来の認識を大きく変えるものとなった。

この結果、「平泉文化」に対する考古学・歴史学界の認識が飛躍的に高まるとともに、中尊寺が行った柳之御所遺跡の保存に向けた署名が20万人分を超えるものとなり、平泉が多くの人々の関心を集めることとなった。この段階では、財団法人（現：公益財団法人）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会の平泉町文化財センター（現：平泉文化遺産センター）が、「平泉文化」の考古学的研究に非常に大きな役割を果たした。

しかし、両組織は、開発行為等でやむを得ず消滅する遺跡の記録保存を行う発掘調査が主体であったため、学術的な課題への対応という点では、調査体制や継続性が保証されているものではなかった。

(3) 研究機関整備に向けた動き

岩手県教育委員会では、柳之御所遺跡をはじめとする平泉遺跡群が一級の学術資料を提供する素材であり、それらの発掘調査によって得られた成果を、組織的・体系的・継続的に県民等に還元していく必要性を強く認識することとなった。一方で、体系的に「平泉文化」を研究している機関は、国、県等を含めても存在しなかった。

このため、平成5（1993）年には「歴史的文化遺産の活用に関する懇談会」を開催し、学術機関の必要性について討論が行われた。さらに、平成6（1994）年に「考古学研究機関の整備に係る調査研究協力者会議」を立ち上げ、考古学研究機関設置の検討に着手し、「平泉文化研究機関整備基本構想」を策定した。この構想では、先端的な研究を行っ

ていくために、考古学的方法を軸として関連する諸科学が連携した学際的方法、及び「平泉文化」を単なる一地方史としてではなく、より広くアジア的な視点から国際的に捉えていく必要性について強調された。

2 平泉文化研究の推進

(1) 第1期～第2期研究計画の概要

「平泉文化研究機関整備基本構想」を策定後、考古学研究機関設置に係る基本計画策定の準備を進めたものの、研究機関の設置に先行して、研究の核である発掘調査による基礎資料の蓄積や、平泉文化の研究者による全国的なネットワークの形成、若手研究者の人材育成などが急務とされた。

この課題を受けて、平成12(2000)年から10か年計画による「平泉文化研究機関整備推進事業」に基づき、「12世紀東アジアにおける平泉文化の意義」を主要テーマに据えた研究計画(以下、「第1期研究計画」)を推進し、考古学を主とした平泉文化について、岩手県と外部研究者との共同研究を骨格として、その成果を「平泉文化フォーラム」及び「平泉文化研究年報」により公開することとした。

また、第1期研究計画の途上となる平成13(2001)年に、「平泉の文化遺産」がユネスコ世界遺産暫定リストに登録されたことから、当初設定したテーマは時宜を得たものとなった。

平成22(2010)年からは、第1期研究計画の成果と課題を踏まえた第2期10か年計画として、「平泉文化の総合的研究基本計画」(以下、「第2期研究計画」)を策定し、引き続き研究を推進した。

平成23(2011)年6月には、「平泉一仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡」として、世界遺産委員会において世界文化遺産への登録が決議された。

しかし、柳之御所遺跡を始めいくつかの遺跡については、世界遺産としての価値証明に至っておらず、更なる研究が必要とされたことから、本研究計画の途中から「世界遺産平泉」に係る研究テーマを追加することとなった。

令和2(2020)年からは、第2期研究計画の成果と課題を踏まえた第3期計画を策定し、引き続き研究を推進した。ここでは、世界遺産の拡張登録を目指した研究テーマを設定するとともに、共同研究の相手方として、国等の研究機関及び岩手大学(平泉文化研究センター)との共同研究実施を想定した。

各期における主な研究テーマと研究内容は以下のとおりである。

(2) 第1期研究計画：平成12(2000)年度～平成21(2009)年度

平泉文化研究機関整備推進事業「12世紀東アジアにおける平泉文化の意義」

【目標】

- ・ 平泉遺跡群の発掘調査成果の蓄積
 - ・ 平泉研究者のネットワーク構築
 - ・ 若手研究者の人材育成
 - ・ 大テーマ：「12世紀東アジアにおける平泉文化の意義」
 - ・ 小テーマ：3年ごとにサブテーマを設定、最終年度に総括シンポジウムを開催
- ① 都市平泉の構造と平泉藤原氏の支配基盤

- ② 世界遺産としての平泉文化
- ③ 国家と異民族の関係性

【経過】

- ・ H12（2000）～H14（2002） 都市平泉の構造と平泉藤原氏の支配基盤
 - ・ H15（2003）～H17（2005） 世界遺産としての平泉文化
 - ・ H18（2006）～H20（2008） 国家と異民族の関係性
 - ・ H21（2009） 研究の総括
- (3) 第2期研究計画：平成22（2010）年度～令和元（2019）年度
平泉文化研究機関整備推進事業「平泉文化の総合的研究基本計画」

【新たな枠組】

- ・ 県内5大学で構成される「いわて高等教育コンソーシアム」との連携研究
（構成大学：岩手大学・岩手県立大学・岩手医科大学・盛岡大学・富士大学）
- ・ 岩手大学平泉文化研究センター研究サテライトを平泉遺跡群調査事務所に設置

【概要】

- ・ 大テーマ：「平泉文化の総合的研究基本計画」
 - ・ 小テーマ：以下のとおり
 - ① 柳之御所遺跡の考古学的研究
 - ② 宗教・思想と国際性
 - ③ 都市と景観
 - ④ 文学と伝承
 - ⑤ 文献史料の基礎的考察
 - ⑥ 世界遺産に関する研究（平成25（2013）年度から追加されたテーマ）
- ※ ⑥のテーマについては、世界遺産登録推進事業「平泉の文化遺産拡張登録に係る5か年研究計画」に基づき、当初の研究計画に追加して取り組むこととなったもの。

【世界遺産に係る研究】

- ・ 平成25（2013）年度～平成29（2017）年度
世界遺産登録推進事業による「平泉の文化遺産拡張登録に係る5か年の研究計画」が策定され、世界遺産に係る共同研究を実施。
 - ・ 平成29（2017）年度～令和元（2019）年度
上記事業による「柳之御所遺跡検討会（平泉の仏教的理想空間に係る国際研究会）」を開催。
- (4) 第3期研究計画：令和2（2020）年度～令和6（2024）年度

【計画期間】

これまでの研究計画が10か年ごとに大小のテーマを設定し、長期的な視点に基づいて研究に取り組んできたものの、情勢変化に対応するため、計画の柔軟性と機動性を重視することなどから、第3期研究計画では、従来の10か年計画ではなく5か年の計画で進めた。

【研究テーマ】

No.	第3期研究計画のテーマ	共同研究者
①	柳之御所遺跡の考古学的研究 (堀内部地区と堀外部地区との関係性)	(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターとの発掘調査
②	平泉の彼岸と此岸の造形に係る比較研究	国等の研究機関研究者との共同研究 (世界遺産登録推進事業との連携)
③	出土文字資料の集成的研究	
④	東・北アジアにおける政治拠点と平泉の比較研究	岩手大学との共同研究
⑤	学校教育における世界遺産の教材化についての研究	

3 平泉文化の総合的研究基本計画（第4期）について

(1) 第3期研究計画を受けた成果と課題

【第3期研究の成果と課題】

研究テーマ	○成果・●課題
①柳之御所遺跡の考古学的研究	○堀外部地区の調査成果が蓄積され、遺構検討が進展し、道路跡や建物跡の把握が進んだこと。 ○堀外部地区の整備基本設計が策定できたこと。 ●堀外部地区の時期変遷を把握するため既調査成果を踏まえた更なる検討やそれを踏まえた堀外部地区の性格等の位置付けが必要であること。
②平泉の彼岸と此岸の造形に係る比較研究	○仏教芸術、中国における彼岸此岸造形との比較研究により、平泉の特質が明らかとなったこと。 ●世界遺産としての平泉の価値づけをさらに具体化すること。
③出土文字資料の集成的研究	○平泉出土文資料の特徴が明らかとなったこと。 ●既資料の更なる釈読等が残されたこと。関連する資料の検討が必要となること。
④東・北アジアにおける政治拠点と平泉の比較研究	○各地の政治拠点との比較により、平泉の特質が明らかとなったこと。 ●未検討の属性を含めた政治拠点との比較検討により、平泉の特質を明らかにすること。
⑤学校教育における世界遺産の教材化についての研究	○教材のデジタル化と新たな学習モデルを行い、授業パッケージの策定と公開ができたこと。 ●作成した教材の学校等での実践や、幅広いターゲットへの遡求が求められること。

【他機関との連携】

	成果・効果
国等の研究機関との共同研究	○国等の研究機関に属する研究者との連携ができたこと。
岩手大学との共同研究	○中国の大学等研究機関との連携や、アジア史的観点での研究が推進できたこと。

【成果と課題のまとめ】

- 学術的検討が進んだことにより、柳之御所遺跡の拡張登録へ向けた学術的研究内容や拡張登録へ向けた取組が進展したこと。
一方で、拡張登録の実現に向け更なる研究成果の蓄積が必要であり、研究の継続が求められている。
また、平泉の保全と価値の発信に向けた取り組みの継続が必要である。
- 柳之御所遺跡の実態が明らかになり、整備基本設計の策定など活用に向けた検討内容が進展したこと。
未調査区があるほか、既調査の成果を合わせた遺跡全体の価値づけには更なる検討が求められる。

○ 他機関との研究の連携が進展したこと。

一方で連携相手方が限定的なものとなり、広がりには課題が残されたこと。

(2) 期間の設定

令和7（2025）年度から令和12（2030）年度の5か年。

(3) 県等の予算事業名

- ・ 平泉文化研究機関整備推進事業
- ・ 世界遺産登録推進事業（以上、岩手県）
- ・ 「世界遺産平泉」保存活用推進事業（以上、世界遺産平泉保存活用推進実行委員会）

(4) 研究テーマの設定

第4期研究計画のテーマ設定にあたっては、上記した第3期研究計画までの成果と課題を踏まえ、下記のテーマと実施項目を設定した。

テーマと実施項目	期待される成果・効果	
柳之御所遺跡の考古学的研究	柳之御所遺跡の発掘調査成果の蓄積により、堀外部地区の様相が明らかになること及び堀内部地区も含めた周辺の実態が明らかになること。	テーマ①
考古学的遺跡群と浄土思想の研究	平泉における浄土思想の反映が詳細に検証され、12世紀平泉の実態が解明されること。 またそれによって「平泉」のOUVがさらに高められること。	テーマ②
世界遺産に関わる比較研究	世界遺産に関わる多岐にわたる課題（価値の向上、保全管理、インタープリテーション等）について、年度ごとに課題を設定して課題解決への研究を行う。 それによって平泉の価値の発信や活用、保全への具体的施策に取り組む。	テーマ③
東・北アジアにおける政治拠点と平泉の比較研究	東・北アジアと平泉との関係について、より具体の様相が解明されること。 それによって平泉の価値の拡大や拡張登録の実現へ向けた学術基盤の確立につなげる。	テーマ④
世界遺産の教材化	学校教育や生涯学習・リカレント教育など世界遺産を活かした教育への取組実践を行い、教材作成や教育実践への還元を図る。 平泉の価値の発信を図る。	テーマ⑤
成果の公開	平泉学フォーラム等の開催や成果物の刊行を行い、研究成果の発信と周知を図る。	

(5) 研究テーマごとの研究目的・目標及び研究の実施方法

<p>テーマ①： 「柳之御所遺跡の考古学的研究」</p>	<p>【研究目的・目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 堀外部地区の様相を把握し、今後の整備の材料として蓄積 ・ 堀外部地区の検討を行い、堀内部地区や他の遺跡との比較検討を実施 ・ 道路跡、区画の検討を実施（遺構の変遷、様相等の検討） <p>【研究の実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターとの発掘調査の実施 ・ 平泉遺跡群調査整備推進会議の指導に基づく発掘調査、遺構検討の実施
<p>テーマ②： 「平泉に係る考古学・歴史学的研究」</p>	<p>【研究目的・目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12世紀平泉の実態の解明 ・ 平泉出土資料の実証的研究 <p>【研究の実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国等の外部研究機関研究者による、現地での滞在調査も含めた共同研究の実施
<p>テーマ③： 「世界遺産に係る比較研究」</p>	<p>【研究目的・目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界遺産に係る諸課題（保存管理、公開活用、インタープリテーション、世界遺産制度、平泉等の県内の事例研究等）の検討 ・ 平泉の世界遺産への課題解決へ向けた周辺事例も合わせた研究 <p>【研究の実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国等の外部研究機関研究者による、現地滞在も含めた共同研究の実施
<p>テーマ④： 「東・北アジアにおける政治拠点と平泉との比較研究」</p>	<p>【研究目的・目標】</p> <p>政治拠点について、追加すべき属性や地域について継続して研究を実施する。平泉の特質を明らかにし、世界遺産拡張登録へも貢献する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東・北アジアにおける前近代の政治都市（拠点）の成立過程を検討し、12世紀における「平泉」との比較研究 ・ 政治と行政拠点としての「平泉」が、東・北アジアにおいて位置付けの追究 <p>【研究の実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岩手大学との共同研究の実施 ・ 東・北アジア及び日本列島における前近代政治都市（拠点）の成立過程を調査 ・ 政治拠点「平泉」の成立過程の調査 ・ 「平泉」と他の政治都市（拠点）の比較に係る研究会・シンポジウム等の開催

<p>テーマ⑤： 「学校教育における 世界遺産の教材化に ついての研究」</p>	<p>【研究目的・目標】 平泉学習モデルの実践について、継続して研究を実施。授業実践により、効果や活用方法を検討し、歴史教育や郷土教育、地域学習、生涯学習、リカレント教育等への発展も見据えた活用モデルの策定を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界遺産教育の具体的な実践事例の収集 ・ 「平泉」における、効果的な世界遺産教育のあり方の検討と実践 ・ 世界遺産の保存管理に係る理解の深化、保存管理に係る幅広い世代への理解の促進 <p>【研究の実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岩手大学との共同研究の実施 ・ 世界遺産教育に係る課題の抽出、及び教育課程と世界遺産教育の関係整理 ・ デジタル教材の更新・改訂 ・ 「平泉」教育に係るワークショップの実施と関係教材（デジタル教材）の活用実践と新たな授業モデルの構築
--	--

(6) 研究テーマごとの年次計画

	R7	R8	R9	R10	R11
柳之御所遺跡の考古学的研究	柳之御所遺跡の発掘調査による調査成果の蓄積 堀外部地区の既往の調査成果を含めた検討による柳之御所遺跡全体の検討				
考古学的遺跡群と浄土思想の研究	外部研究者との共同研究の実施。 考古学、日本史などのほか、アジア史、建築史などの関連領域の研究者と年度ごとに研究テーマを設定して共同研究を行う。				
世界遺産に関わる比較研究	外部研究者との共同研究の実施。 世界遺産に関わる研究テーマを設定して共同研究を行う。				
東・北アジアにおける政治拠点の比較研究	<ul style="list-style-type: none"> ・検討すべき事例の洗い出し ・現地調査 ・文献調査 ・ワークショップ等の開催 	追加事例の調査検討 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の政治拠点 ・ワークショップ等の開催 	中間成果の取りまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ等の開催 ・東アジアの政治拠点 	平泉との比較研究 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ等の開催 ・北アジアの政治拠点 	成果の取りまとめ シンポ等の開催開催等 <ul style="list-style-type: none"> ・平泉の成立、後代への影響
学校教育における世界遺産の教材化についての研究	改善点等の検討 活用事例の検討（教育課程での位置づけ） 世界遺産教育の意義づけ 教材の改訂	改善点等の検討 活用事例の検討（教育課程での位置づけ） 世界遺産教育の意義づけ 教材の改訂	授業実践による効果の研究（1） <ul style="list-style-type: none"> ・活用事例の拡大の検討 	授業実践による効果の研究（2） 活用事例の拡大（授業・生涯学習等）	活用モデルの策定
成果の公表	平泉学フォーラムの開催による成果の公開 年報の刊行による成果の公開				
	フォーラムの開催 年報の刊行（26号）	フォーラムの開催 年報の刊行（27号）	フォーラムの開催 年報の刊行（28号）	フォーラムの開催 年報の刊行（29号）	フォーラムの開催 年報の刊行（30号）

※R8 年度以降については前年度までの進捗に伴う成果と課題を踏まえて、年度当初に計画を策定し実施するもの。

(7) 研究の実践

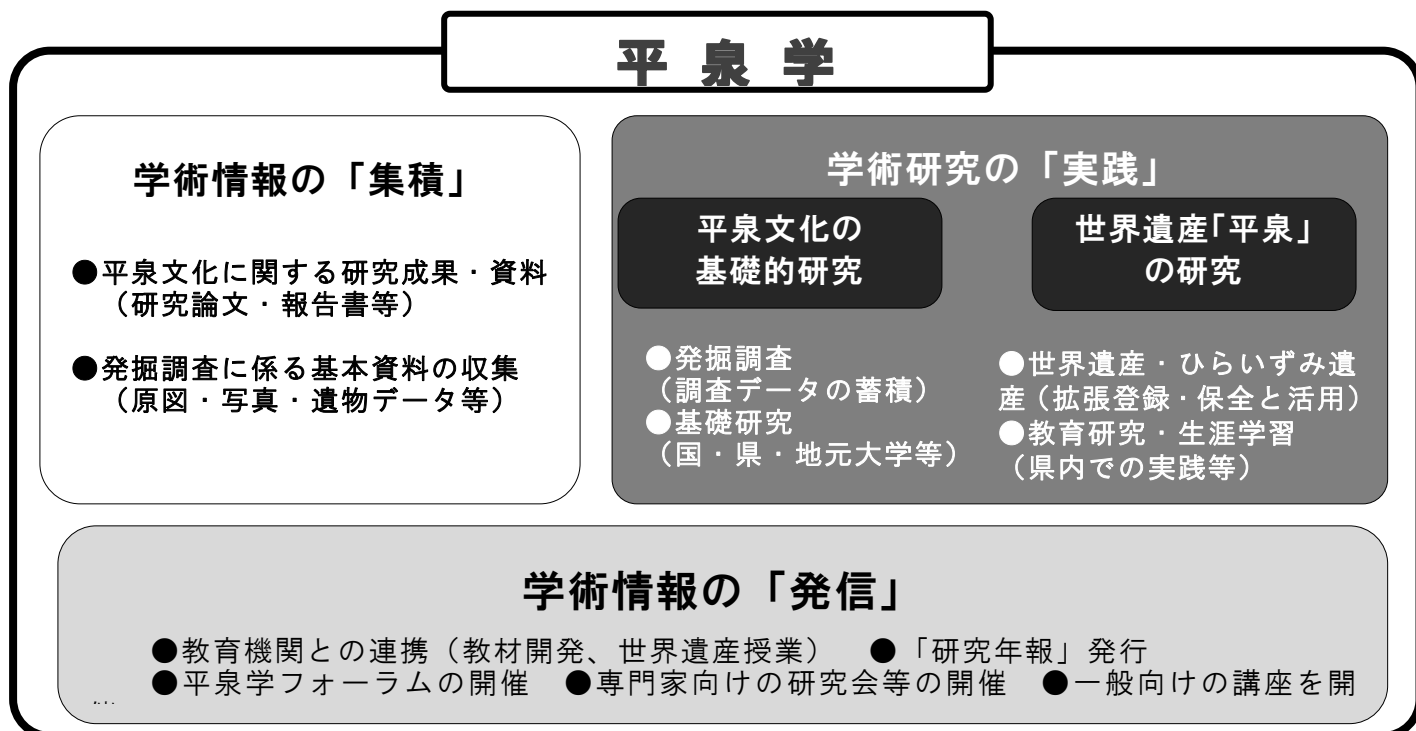
第4期研究計画については、令和3（2021）年度内に開設された岩手県立世界遺産ガイダンスセンターなどの施設を活用しながら、『平泉学』（＝「平泉文化」に係る総合的な学術研究領域）を実践の柱として研究計画を進めていくものである。

ガイダンスセンターの基本計画の中では、「平泉文化の多角的な調査・研究と研究者の交流の拠点として、学術情報が集積し活用される施設」と示されており、施設を活用しながら、学術研究を更に推進させていくことで平泉の保全管理や活用にも貢献していきたい。また、外部研究者との共同研究を実施することで、将来的な研究拠点機関誘致を目指しているところであり、外部研究者とのネットワークを広げながら平泉研究の拡大を想定している。

* 『平泉学』

「平泉の文化遺産」をはじめとする情報発信力を強化するため、「平泉学」を軸とした学術研究に基づく情報発信等を充実します。（「いわて県民計画（2019～2028）」より）

○ 『平泉学』研究フレームのイメージ



(8) 成果の公開

研究の成果については、毎年度、「平泉学フォーラム」、「研究年報」により公開・刊行する。主な実施内容は以下のとおりである。

① 「平泉学フォーラム」

一般向けを対象とするもので、より理解しやすい内容として開催する。

② 「平泉文化研究年報」

平成 12（2000）年度から刊行を重ねてきた『平泉文化研究年報』を継続・発展させるもので、研究計画の成果を収録する。

4 今後に向けて

第 4 期研究計画の策定にあたっては、世界遺産の拡張登録を見据えた内容を研究テーマとして重点化し、ガイダンス施設を活用しながら、岩手県及び岩手県教育委員会が合同で実施することとしたものである。設定した研究計画及び研究テーマについては、令和 7（2025）年度から令和 11（2029）年度までの 5 か年による見通しを立ててはいるものの、研究の進展や情勢の変化等によっては、研究テーマの内容を一部見直す必要性が生じることも考えられる。

今後、他の研究機関等との連携による研究計画を進めながら、多くの研究者が平泉に集い、研究活動がより一層活性化して得られた成果によって、国際的な情報発信を行ってきたい。